

難民支援の取り組み

WCRP日本委員会の「難民支援」のはじまりは、1976年11月シンガポールで第1回アジア宗教者平和会議（ACRP）が開催されていた最中、「シンガポール港に難民が漂着している」という一報でした。



会議最終日に、「われわれの助けを求めている人々に対して、直ちに行動がとられなければならない」とする「インドシナ難民救援に関する決議」が採択されました。

その2日後に、日本委員会は6万ドルの拠出を申し出、年末までに予備調査を終了し、翌年1月上旬に大型船2隻がマレーシア東岸及びタイ沿岸方面に向かい、554人の難民を収容。船内では新しい命が2名誕生していました。

その後、1979年8月米国プリンストンで開催された第3回世界宗教者平和会議においてカンボジア難民の惨状を知ったWCRP日本委員会は、「難民に関する部会」を設置。救済活動を開始しました。



1980年にはカンボジア難民救援調査団をタイ・カンボジア国境に派遣し、同年3月に2億1480万8751円をカンボジア難民救援のために資金援助。カンボジア難民支援では、「クメール語書籍配布活動」、婦人部会（現・女性部会）を中心にWCRPノンチャン養護センター設営で190名のカンボジア難民孤児への「里親運動」、「学校施設建設」、「絵本配布」の支援活動が行われ、カンボジアとの交流は2004年の第21次カンボジア訪問団派遣まで続きました。また、1999年よりアフガニスタン難民支援事業視察を皮切りに、翌2000年からUNHCRを通じてのアフガニスタン支援の計画が動き出しました。

WCRP日本委員会の想い

1 宗教施設に1 難民家族

紛争や災害で母国や故郷から離れざるをえなくなった難民、国内避難民への「受け入れ、保護、支援、共生」という4つの行動における宗教者の使命は大きい。政府や地方行政、市民社会、教育機関などと連携し、様々なコミュニティが協力して受け入れる体制をつくる。まず1宗教施設が1難民家族を受け入れることを提案します。
(第10回世界大会へ向けたWCRP日本委員会の提言より)

人類家族と分け合う

私たちは、あらゆるいのちと尊厳を守るための行動計画として6つのアジェンダを掲げており、それに取り組むにあたり、次の8つのマインドセット（心構え）の共有を大切にしています。難民支援もそのマインドセットに基づいています。

1. 祈りと行動の一致
2. 握る手のあたたかさ
3. Tackle Problems
4. 人類家族と分け合う
5. 一人ひとりが大切
6. Understand＝下に立つ
7. 開いてつながる
8. 次世代の声とともに

「世界のあらゆる人を隣人として迎え入れ、分かち合いの生き方を実践する」

- あらゆる人を善き隣人・家族・兄弟姉妹・尊い人として受け入れます。
- とともに生き、限られた地球の恵みを分かち合います。
(WCRP日本委員会アジェンダ2030より)

WCRP日本委員会では、活動を支えて下さる賛助会員を募集しています。また、ご寄附を通してご支援いただけます。詳しくは、ウェブサイトの「支援する」をご覧ください。
<https://www.wcrp.or.jp/donation/>

WORLD REFUGEE DAY 2023



世界難民の日

6月20日は「世界難民の日」*

難民の背景を持つ人々などへの支援について理解を深め、共感を得てもらいたいという想いから、「あらゆるいのちと尊厳を守る」ことを目指すWCRP日本委員会の活動を紹介します。

*2000年12月4日、国連総会で、毎年6月20日を「世界難民の日」(World Refugee Day)とすることが決議されました。難民の保護と支援に対する世界的な関心を高め、UNHCRを含む国連機関やNGOによる活動に理解と支援を深める日にするため、「世界難民の日」として制定されました。

(UNHCR駐日事務所HPより)

WHAT WE HAVE DONE IN 22-23

私たちの活動（2022～23）

国内 >>>

シリア難民留学生受入

WCRP日本委員会では、2016年度より認定NPO法人難民支援協会（JAR）と共同で「シリア難民留学生受入れ事業」を実施してきました。この事業は、シリア国内の内戦により、難民を最も多く受け入れているトルコで高校卒業の資格を持つ学習意欲の高いシリア人青年を対象に公募し、関係各省庁とも調整、協力の上で実施している市民社会主導による難民受け入れ事業。来日してから生活基盤が整うまでの財的支援として生活支援金を支給しました。（1期生～5期生）

“ ”

このような貴重な機会を与えていただき、感謝に堪えません。7ヶ月という短い期間でしたが、この間に全く新しい生活を送り、私の人格に多くのものを与えてくれました。来る前は日本のことを知っていたつもりでしたが、7ヶ月間暮らした日本は、テレビで聞いた見たりしたものよりずっと素晴らしいものでした。私の希望は、私たちシリアの学生が皆さんの信頼に値するということです。私はいつでもどんなことでもご相談に乗ります。心から感謝しています。

—生活支援金を受け取った5期生の声

アフガニスタン難民受入

2021年8月にアフガニスタンでタリバン政権が樹立されて以降、アフガニスタン国内で身の危険に晒され、諸外国へと一時避難を求める人々がいます。WCRP日本委員会は、WCRP関係者と日本のNGOからの緊急要請を受けて、同11月上旬よりアフガニスタンからの避難民家族を日本で受け入れて現在も継続して支援を行っています。

“ ”

「フルート奏者として活躍している」兄のジャムシッドは命を狙われました。「女性なのに柔道をしている」妹のラティファは殺害予告を受けました。母と兄妹3人家族は難民認定がされましたが、何気ない日本での日常生活の中に言語・文化・システムの違いが障壁となり、その中でも生きていかなければならないのが現実です。WCRPではご縁の中で繋がった一家に対して関係団体と連携しながら衣食住のケアや病院の同行等を行なっています。彼らと日常を過ごす中で、ラティファが初めて日本で柔道をしてとても嬉しそうな表情を見て、私も嬉しさが込み上げてきました。母のビビさんの身内が亡くなり、家族想いのビビさんが祖国にいる家族と会いたくても会えない気持ちを思うと涙が溢れました。ジャムシッドが大切な日に“You are my family”と招いてくれ、宗教やルーツが違う自分が受け入れられる安心感をいただきました。「難民」でなければ一家と出会えなかったかもしれませんが、どんな人も「難民」とならず生きていけるように、また、難民状態にある方々が心安らかに暮らしていけるよう祈りながら、相手の笑顔と涙にそっと寄り添いながら平和を積み重ねていきたいと強く思います。

—難民家族をサポートするスタッフの声



海外 >>>

ウクライナ避難民支援

2022年2月24日のロシア軍による軍事侵攻により危機的な状況に陥ったウクライナ情勢に対し、3月15日から、ウクライナから近隣国へ避難をした人々の支援を行うために緊急人道支援募金を呼び掛けました。学習会を開催するとともに、ウクライナ隣国でウクライナ避難民を支援する団体に財的支援を行ったほか、WCRP日本委員会からポーランドへ避難民支援のためのボランティア隊を派遣しました。

ボランティア隊派遣

ポーランド国内でウクライナ避難民の受け入れや支援を行っている、フォコラーレ運動、カリタス、Salam Lab（平和ラボ）などの団体と協力し、避難民の方々との交流ワークショップや物資支援などを行いました。

- ・第一次隊 7月15日～7月31日 3人
- ・第二次隊 7月31日～8月14日 5人
- ・第三次隊 8月14日～8月28日 6人
- ・第四次隊 10月2日～10月16日 8人

“ ”

- ・ 遠い日本から来てくれたことや日本から祈ってくれていることがとてもうれしいです。
- ・ 私たちを忘れないでください。
- ・ ポーランドに来て違う宗教、違う国の人々がみんなで平和のために動いていることに感謝と感動しました。

—ウクライナ避難民の声

WORLD
REFUGEE
DAY 2023



Protecting All Life and Human Dignity

あらゆるいのちと尊厳を守る